

新川水土里たより

第26号

新川農林振興センター農業農村整備広報・広聴連絡会 〒937-0863 魚津市新宿10-7 0765(22)9137【指導課】
★管内の情報★ <https://www.pref.toyama.jp/sangyou/nourinsuisan/nougyou/niigawa/index.html>



新川地域の魅力ある農業と美しい農村の実現に向けて

所長 尾島 輝佳



生産者をはじめ関係の皆様には、日頃より農業・農村の振興や当センターの事業推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、農業農村をとりまく情勢は、人口減少による農業従事者の高齢化や人手不足、猛暑や集中豪雨による被害の頻発化、国際情勢の影響による食料供給の不安定化や資材・燃料価格の高騰など多くの問題に直面しています。

こうした中、当センターでは、担い手へ農地を集積・集約するとともに、スマート農業技術の導入とそれに応じた農地の大区画化・汎用化や、幅広溝畔など

による維持管理作業の軽減化を図るなど、生産性の高い農業への転換を進めています。

また、気候変動により厳しい生育条件や災害リスクが高まる中、「富富富」など高温耐性品種の作付け拡大と良質米の安定生産や収益性の高い園芸品目の生産拡大、農業水利施設の計画的・効率的な防災工事の実施や農業用水路への転落事故防止のための一斉点検活動や転落防止柵の設置などにより、競争力ある農産物の生産と安全・安心な地域づくりを進めています。

さらに、管内には多くの中山間地域があり、こうした地域の農業振興に向け、用排水路や農道整備、恒久柵や鳥獣用グレーチングの設置による鳥獣被害防止対策のほか、地域コミュニティ機能の維持・強化を図る農村型地域運営組織（農村RMO）の定着支援、都市部の住民などとのマッチングによる農村関係人口の拡大や深化を図るなど、中

山間地域の活性化を推進しています。

新川地域の魅力ある農業と美しい農村を実現し次世代へつなぐため、ハード・ソフト両面から取り組んでまいりますので、皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農村RMO（農村型地域運営組織）の取組について

日本の農村は、人口減少と高齢化が進み、存続が厳しい集落も多く、危機的な状況です。農村RMO（農村型地域運営組織）は、こうした状況を打開するために地域の住民や集落営農法人、自治会などが農用地保全、地域の資源活用、住民の生活支援をテーマに一体となって地域経営に取り組み新しい枠組みです。

RMO（Region Management Organization）は地域運営組織のことで、地域の課題を地域の住民が中心に解決する組織です。農用地の保全を中心に活動するRMOを農村RMOと呼びます。この組織は、農林水産省が主軸となって支援しますが、

内閣府、厚生労働省、総務省、国土交通省の各府省や、都道府県、市町村の地方自治体も併せてバックアップする取り組みで、令和4年度より全国で展開されています。

新川管内では、黒部市宇奈月町下立・浦山地区で令和6年度より農村RMO事業に取り組んでいます。

この地区では、閉鎖された直売所の復活、子供食堂や認知症カフェの併設、レモンガラスの試験栽培、黒部市の伝統菓子である「水だんご」のワークショップの開催等を通じて、地域の活性化を目指しています。

令和8年度からは、新たに魚津市松倉地区で農村RMO事業に着手します。



農業用水路転落防止安全対策について

平成28年度から令和7年度の10年間に県内で発生した農業用水路での転落死亡事故は158件となっており、令和7年度では12件の転落死亡事故が発生しています。

多発する転落事故への防止対策として、行政、関係団体や地域組織などが連携して、啓発チラシの作成や市町広報誌、行政SNSへの掲載などで注意喚起を呼びかけています。

また、地域住民によるワークショップで意見集約・合意形成する手法により、身近な危険箇所への把握や、実情に応じた対策を検討する危険箇所マップの作成を進めています。

令和7年度は、県内でワークショップを20箇所実施し、うち管内では6箇所実施しました。令和8年度も、ワークショップを実施を予定していますので、引き続き、市町や土地改良区など関係機関職員の方々には、事故防止に向けたご協力をお願いします。

これまでの活動で、近年の事故件数は減少傾向にありますが、依然として県内で年間10件以上の事故が発生し、特に65歳以上の高齢者が9割以上です。また、自宅近くの水路でも発生しています。事故を「自分事」と意識し、家族・地域での声掛けにも心掛けてください。



農業用水路への転落事故に気をつけて!!

「危険!」
「あんなに人が
おちた」

県内の転落死亡事故のうち、約9割は
65歳以上の高齢者です。
最近では若年層でも事故が多発しています。

5つの合言葉!

1. 危険を知らせる。危険な場所には必ず危険な場所の表示を貼る。
2. 危険を知らせる。危険な場所には必ず危険な場所の表示を貼る。
3. 危険を知らせる。危険な場所には必ず危険な場所の表示を貼る。
4. 危険を知らせる。危険な場所には必ず危険な場所の表示を貼る。
5. 危険を知らせる。危険な場所には必ず危険な場所の表示を貼る。

農業用水路の安全対策について
ご家庭などでお話し合いください!

農業用水路転落防止 安全度チェックシート

チェック項目	現状	改善
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね
水路の両側に、安全な歩道が確保されているか。	はい	いいね

結果

「はい」が多い = 安全な水路である。改善が必要な箇所は、改善策を講じてください。
「いいね」が多い = 安全な水路である。改善策を講じてください。

大区画化等加速化支援事業がスタート!

これからの地域の農業を担う農業者の皆さん、田んぼの畦が、規模拡大のブレーキになっていませんか?

令和7年4月に閣議決定された新しい食料・農業・農村基本計画に基づき、初動5年間で農業構造転換を推進するため、令和8年度から、農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組を支援する、大区画化等加速化支援事業を立ち上げました。

大区画化等加速化支援事業 新田・合田地区

■ 富山県大区画化等推進協議会
事務局: 富山県土地改良事業団体連合会内
〒939-8214 富山市南橋17
TEL: 076-424-3380
FAX: 076-424-3332
HP: <https://www.tym-midori.net/daikukaku>

※事業の相談および事業申請等の各種手続きについては、「富山県大区画化等推進協議会」において支援します。

このほか、土地改良区、農業研修センター、市町村等の各地域の事業関係者とも連携を図って事業を推進しますので、協議会や各地域の土地改良区等に
まずは、気軽にご相談ください!!!

区画が小さいほ場、畦畔が多く作業効率が悪いほ場、団地化を進めたいほ場、自分たちの手

では場は変えられます！
まずは気軽にご相談を！

新規地区紹介

農村地域防災減災事業

鹿熊地区(魚津市)

本地区は、魚津市鹿熊ほか地内を流下する下椿用水路の改修を行うものです。本水路は、素掘りトンネルと三方コンクリート水路区間を有しており、老朽化が著しく進行しています。また、過去には斜面からの落石により水路が損壊したこともあり、本事業にて、災害の未然防止と維持管理の省力化を図ります。



総事業費：900,000千円
受益面積：60.9ha
工期：R8～R13
主要工事：水路工 L=732m
担当：水利防災班

農村地域防災減災事業

宮野用水地区(黒部市)

宮野用水路は、段丘の斜面に接する山腹水路であり、過去の事業により暗渠化がなされまし

た。

しかし、本事業区間については既設利用のままとなっており、トンネルを調査したところ、老朽化が著しく、災害の危険性があつたため、本事業により、災害の未然防止と用水路の機能維持を図ります。



総事業費：320,000千円
受益面積：106.9ha
工期：R8～R12
主要工事：水路工 L=127m
担当：水利防災班

農地整備事業

殿町東部一期地区(朝日町)

本地区では、小規模な区画等が担い手農業者による営農の高度化及び営農規模のさらなる拡大にとって障害となっています。

このため、区画整理による農地の大区画化(計画2ha)・汎用化を図り、大型機械に適した農地による営農規模の拡大・作業の効率化と併せて、排水性の高い高収益作物に適した大区画は場を活用し、「白ねぎ」などの生産拡大を進め収益性の高い

農業経営の確立を目指します。



総事業費：1,150,000千円
受益面積：24.9ha
工期：R7～R15
担当：農地整備第一班

完了地区紹介

水利施設等保全高度化事業

横水地区(朝日町)

本地区の横水頭首工は朝日町を流れる二級河川舟川に設置されている取水堰です。



本地区では、設備の老朽化に伴う故障が頻発しており、安定した取水の確保が難しい状況であつたため、適正な取水管理に多くの労力が必要でした。

このことから、本事業で頭首工を改修し、ゲートの遠隔監視制御システムを導入することで、取水管理の省力化と用水の安定供給がなされ、営農の効率化に寄与することが期待されます。

農村地域防災減災事業

棚山西池地区(朝日町)



本地区の棚山西池は朝日町にあるため池です。これまでの点検や調査で堤体の漏水が見え、地震時の安定性を欠いていることが判明しており、自然災害発生時にはため池の決壊による下流域への被害が危惧されていきました。

いました。

このため、本事業によって堤体・洪水吐等の改修を行い、被害を未然に防止し、農業用水源を維持し地域の農業の発展と防災力向上を図りました。

農地整備事業

上田地区(入善町)

本地区の農業用排水路は昭和45年から50年に造成され、完成後40年以上が経過し施設の老朽化が進んだことから、維持管理に係る労力を要し、営農活動にも支障を来していました。

本事業では用排水路約4.5kmの改修の中で、一部開水路においては管水路へ改修して維持管理労力の低減を図り、特産の「入善ジャンボ西瓜」をはじめ、高収益作物の作付に対応したほ場となるよう整備を行いました。



整備前



整備後

農地整備事業

宮津地区(魚津市)

宮津地区は、「未整備のエリア」と「昭和40年代に整備されたエリア」が混在しており、整備した水路でも整備後約50年経過するなど地区全体で施設の老朽化が進んでいました。



そのため、水漏れや法崩れがたびたび発生し、水管理や泥上げなどに多くの手間がかかっていました。

このような課題を解決するため、本事業では約17haの農地を区画整理し、あわせて約5.5kmの水路を新しく整備しました。

整備後は、「新川だいこん」

の生産拡大や担い手への農地集積率が9割を超えるなど地域の農業が着実に活性化しています。

新規採用職員紹介



石井 翔琉 技師
指導課計画班



志鷹 宏太郎 技師
農村整備課
農地整備第一班

指導課計画班に配属になりました石井です。出身は朝日町で、趣味はサウナに入ることと食べることです。現在は広報広聴や、農地地すべり防止区域の管理などといった新しい仕事をさせてもらっています。早く職場になれるよう精一杯努力していきます。

農村整備課農地整備第一班配

属になりました志鷹です。

出身は富山県の立山町です。趣味はキャンプで、好きなアーティストはサザンオールスターズです。

前職は土木の施工管理で、主に砂防工事に携わっていました。わからないことが多くご迷惑をかけますが、早く仕事を覚えられよう努力いたします。

フェイスブック やっています!

「とやま水土里探訪ブログ
(富山県農村整備課)」

<https://www.facebook.com/toyama.nousonsebi>



編集後記

最近気温が下がり、秋の気配が深まる季節となりました。秋には秋刀魚やりんご、さつまいもなどといった旬の食材が豊富です。ぜひ皆様も旬の食材を食べて、免疫力向上かつ健康的にこれからも過ごして行きましょう。